

◇編集後記◇

本号の JOH 誌も、たいへん充実した内容となりました。8本のオリジナルペーパーのうち、7本は海外からの投稿で、国際的にも一定の評価を得ている大規模疫学研究成果も発表されています。化学物質に対する新しいバイオマーカーに関する Review とオーストラリアにおけるじん肺死亡に関する Rapid communication もタイムリーな情報となっています。一方、和文誌も、全身振動曝露に関する研究、医療機関における機器の消毒、身体活動と体重、メンタルヘルスに関する eラーニング利用状況など、昨今の産業保健の課題を反映した調査結果が報告されています。

さて、この7月に、JOH 誌のインパクトファクターが、2004年の0.79から2005年は1.5へ上昇したとのうれしいニュースが入りました。これもひとえに会員の皆様の本誌の積極的な活用と、編集作業へのご協力の賜物と感謝申し上げます。編集委員会一同、この勢いをさらに持続するべく努力を惜しまぬ所存です。

投稿数も増加を続けております。本誌の編集方針とし

て、アジアを含む発展途上国からの発信等を大切に育てるべく、Field studyやOccupational Health/Safety in the Worldを設けていますが、原著については、限られた紙面で良質な情報を発信するために、査読は総じて厳しくなっている状況です。とくに、論理の混乱、論文作成に当たっての基本的な約束事の違反、査読コメントに対する不十分な回答などに対しては厳しい評価がなされています。貴重な所見が伺われつつも、それを十分に伝えられないがために受け入れられない報告もあります。編集委員、査読委員の先生方からも折に触れ指導をいただいておりますが、論文による発表は、苦勞の多い諸活動・研究の最後を締めるものです。論文作成に当たっては、細心の注意を払っていただきたいと思います。

本誌は、産業保健・医学・看護分野の情報発信媒介として発展しています。会員の皆様の積極的なご貢献を期待いたします。

(堤 明純)

「産業衛生学雑誌」編集委員会

委員長：竹下達也（和歌山医大）

副委員長：圓藤陽子（東京労災病院）、武林 亨（慶應大）、堤 明純（産業医大）、

本橋 豊（秋田大）、森 満（札幌医大）

荒木田美香子（大阪大）、有澤孝吉（徳島大）、市場正良（佐賀大）、掛本知里（東京女子医大）、上島通浩（名古屋大）、車谷典男（奈良医大）、甲田茂樹（安衛研）、河野公一（大阪医大）、西條清史（金沢大）、榊原久孝（名古屋大）、澤田晋一（安衛研）、塩飽邦憲（島根大）、笠島 茂（国立保健医療科学院）、埜田和史（滋賀医大）、谷川 武（筑波大）、錦戸典子（東海大）、橋本英樹（東京大）、濱田篤郎（海外勤務健康管理センター）、保利一（産業医大）、森河裕子（金沢医大）、森田 学（北海道大）、森本泰夫（産業医大）、八幡勝也（ヒューマンメディア財団）、若林一郎（兵庫医大）

※産衛誌 48 巻 3 号において、独立行政法人労働安全衛生総合研究所の略名（安衛研）を誤って表記しておりました。お詫びいたします。

〒160-0022 東京都新宿区新宿1丁目29番地8 公衆衛生ビル4階

電話 03-3356-1536 ファックス 03-5362-3746 振替 東京 00100-7-133495 番